

山梨県内の企業労働者における 社会的スキルと職業性ストレスの関係

～平成17年度産業保健実態調査～



○小田切陽一（山梨産業保健推進センター相談員）

森川三郎（山梨県立看護大学短期大学部精神看護学）

飯島純夫（山梨大学医学部看護学科地域老年看護学）

坂本玲子（山梨県立大学人間福祉学部）

金子誉（山梨労働衛生センター）

平野雅巳（山梨産業保健推進センター相談員）

佐藤章夫（山梨産業保健推進センター所長）

研究の目的

1. 山梨県における企業労働者の職業性ストレスの実態について明らかにする。
2. 社会的スキルと職業性ストレスの関係について明らかにする。

調査対象

調査対象事業所

産保センター所有の事業所名簿から従業者数200名以上の93事業所から業種等を考慮し12事業所を抽出、了承の得られた7事業所および同規模の医療業1事業所

業種内訳:印刷業、通信サービス業、金融業、
医療業各1事業所と製造開発業 4事業所

調査対象者

上記事業所の常勤従業者 2795名

回収数 2268(88.1%)

有効回答 1729(61.9%) 男性1397名 女性332名

調査項目

1 社会的スキル

KiSS-18 (菊池1988)

定義: 対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル

2 職業性ストレス

職業性ストレス簡易調査票

(旧労働省「作業関連疾患の予防に関する研究班

ストレス測定研究グループ—作成」)

3 ストレスコーピング

Worker's coping behavior scale (庄司・庄司1992)

KiSS-18 (菊池1988)

定義: 対人関係を円滑に運ぶために役立つスキル

- 1 他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか。
- 2 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。
- 3 他人を助けることを、上手にやれますか。
- 4 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか。
- 5 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか。
- 6 まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。

など18項目 5件法

尺度を構成する領域: 初歩的スキル 高度なスキル

感情処理のスキル

攻撃に代わるスキル

ストレスを処理するスキル

計画のスキル

Worker's coping behavior scale (庄司・庄司1992)

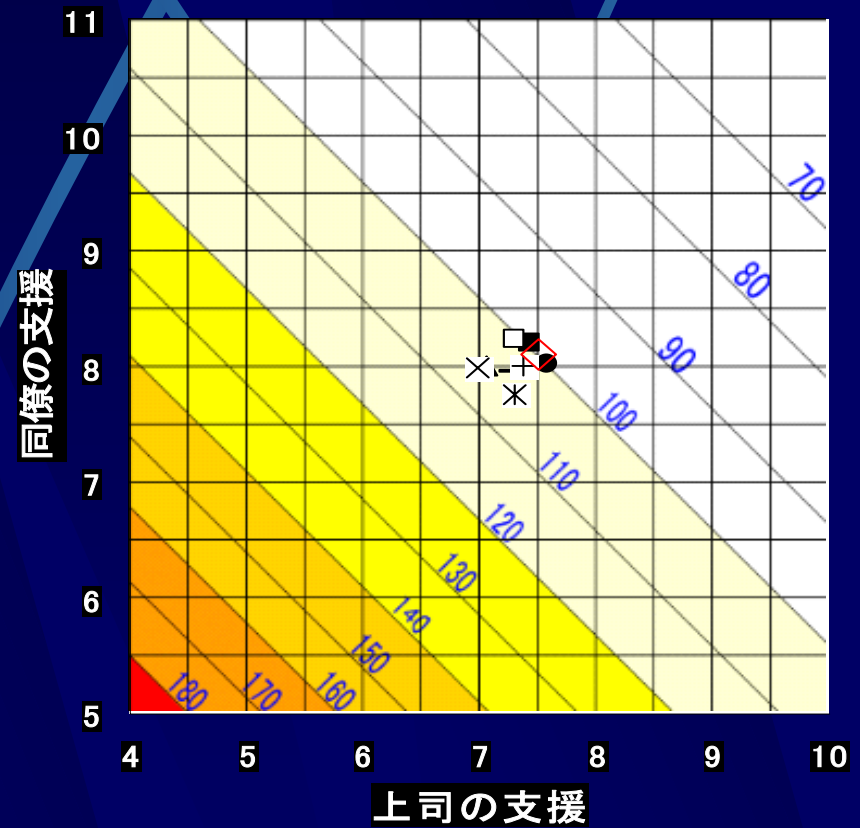
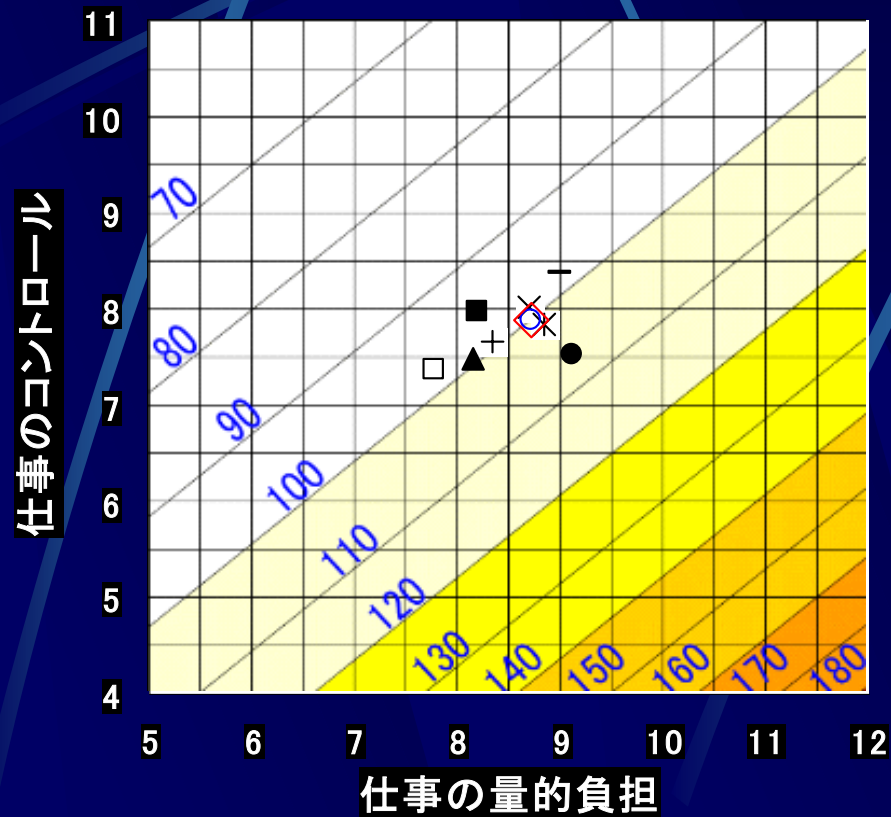
コーピング: 情緒的苦悩や緊張感を予防したり、低減させるための外的生活環境に対する具体的努力

コーピングの側面

- ① 外的環境に働きかけてストレスを少なくする行動的コーピング (積極的認知・行動型)
- ② ストレッサーはそのままだが、受け止め方を変える認知的コーピング (消極的認知・行動型)
- ③ ストレス反応の結果生じてしまった心身の不調感の改善を目的とする症状対処 (症状対処型)

調査結果

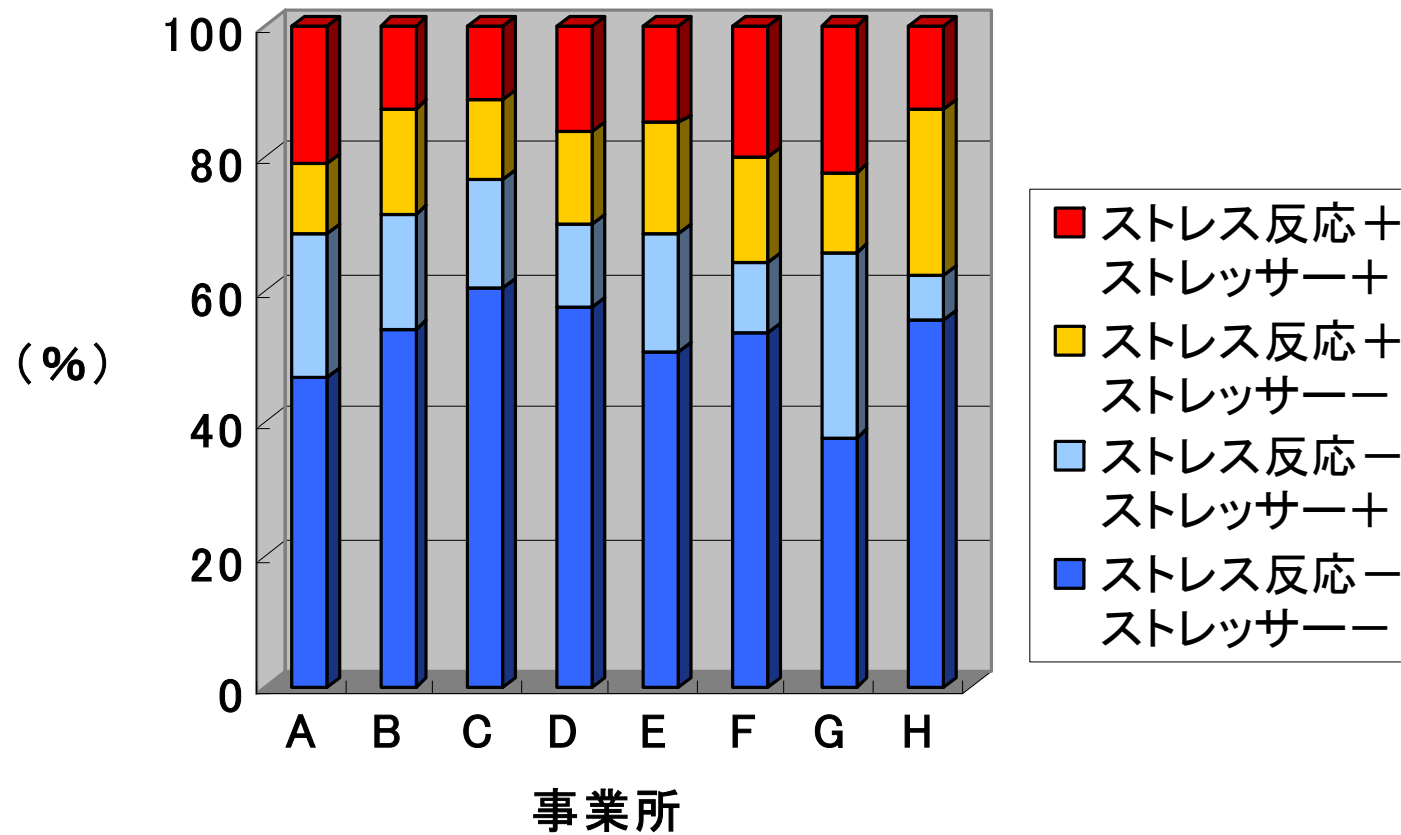
職業性ストレスの状況(判定図)



調査結果

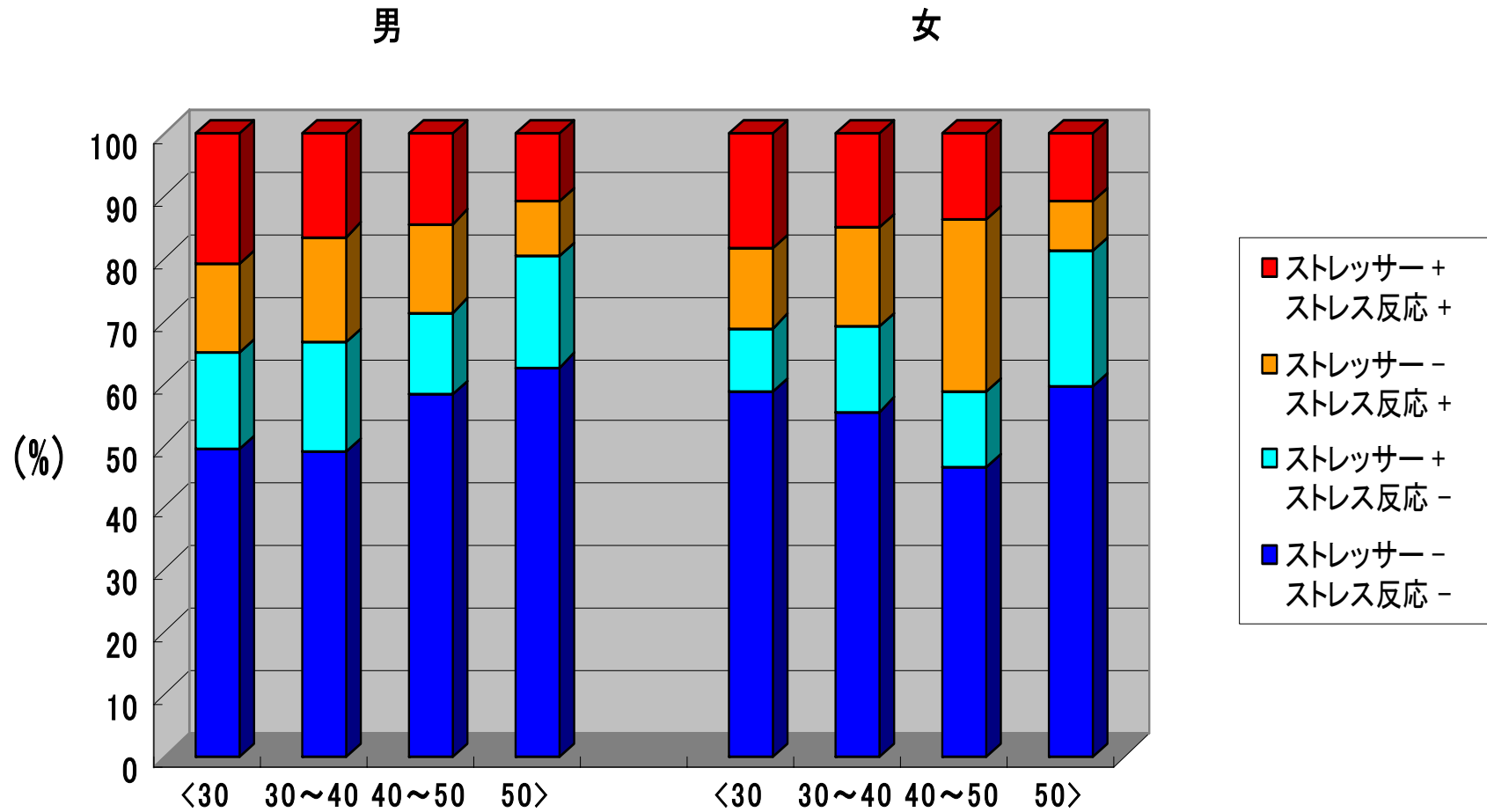
ストレス反応の表出からみた職業性ストレスの状況

事業所別ストレス区分割合



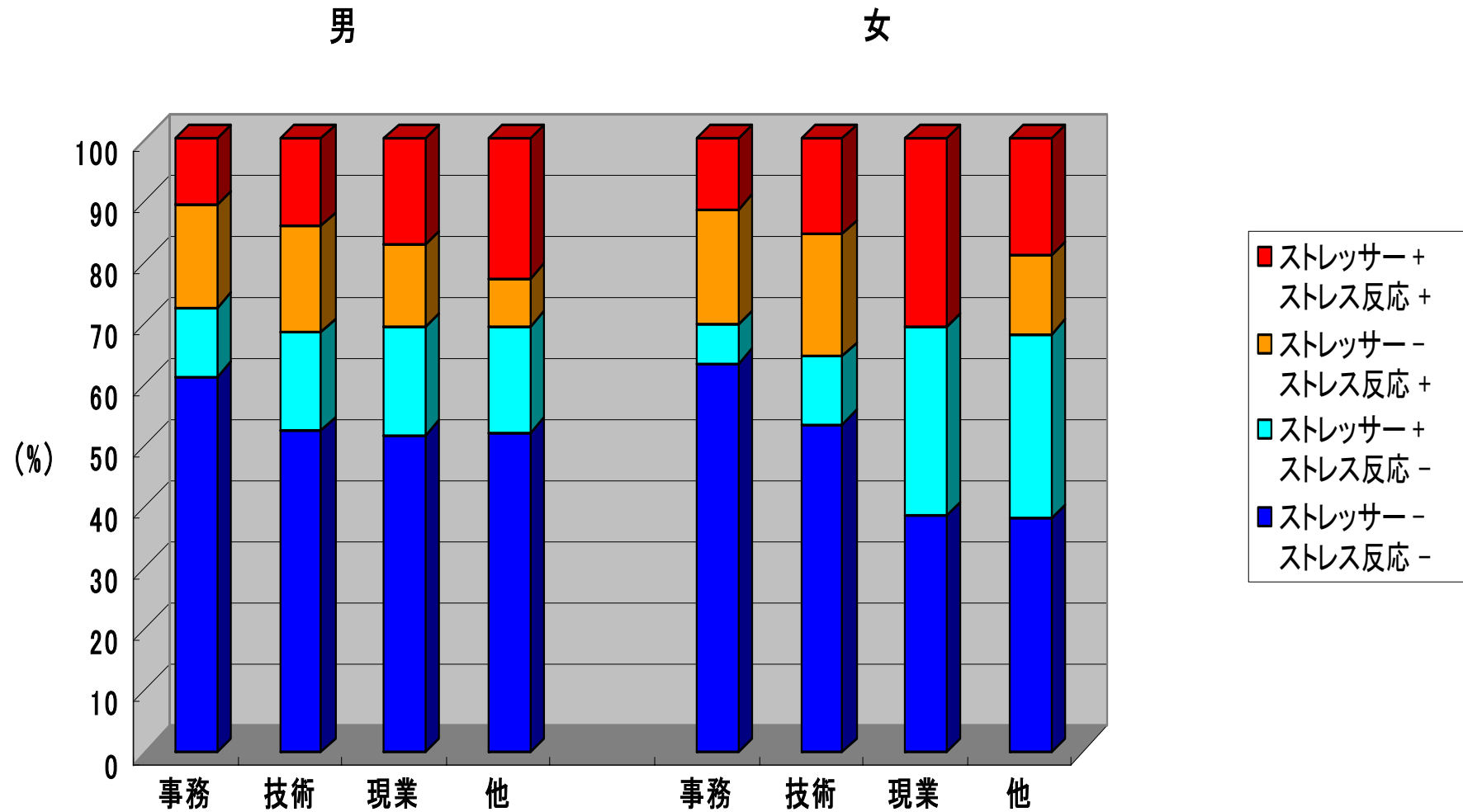
調査結果

職業性ストレスの状況(年齢別)



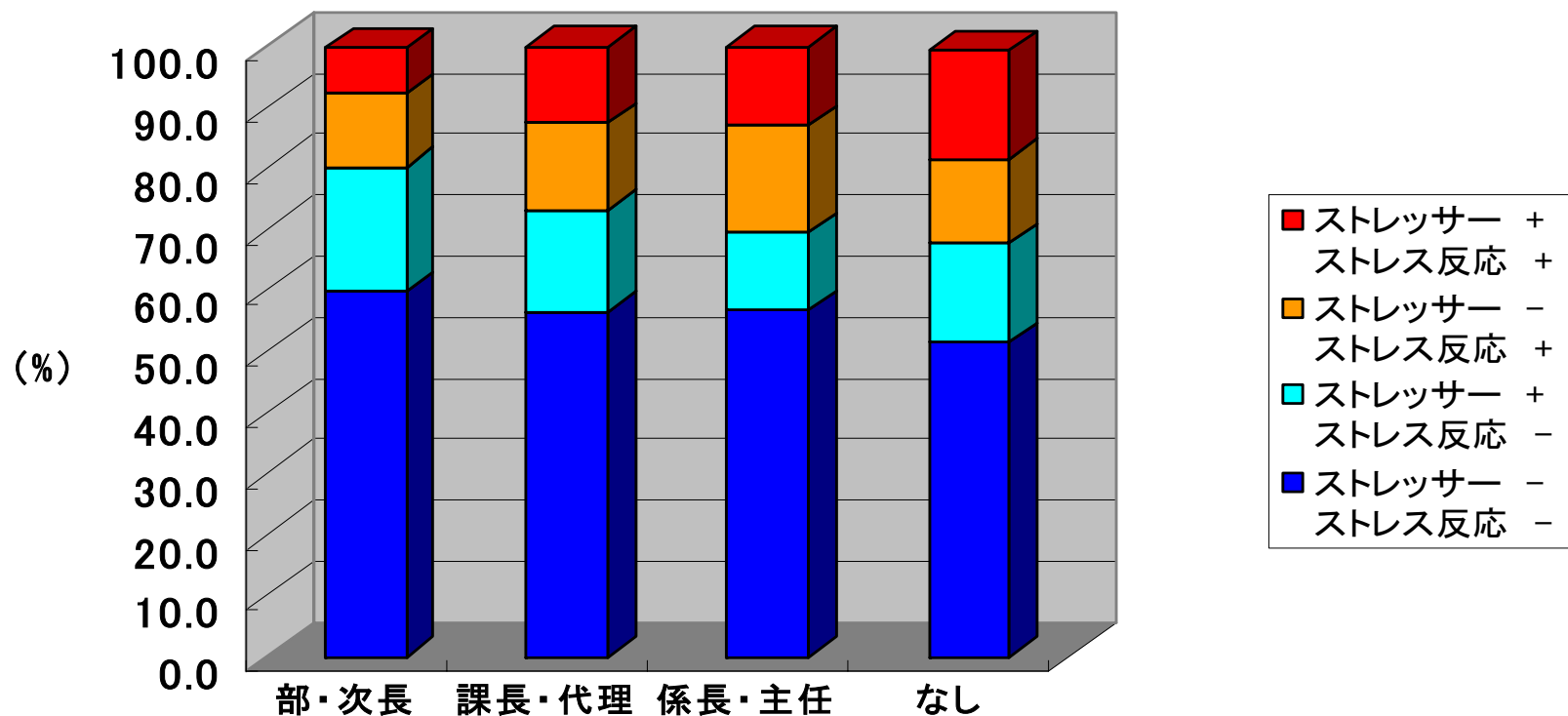
調査結果

職業性ストレスの状況(職種別)



調査結果

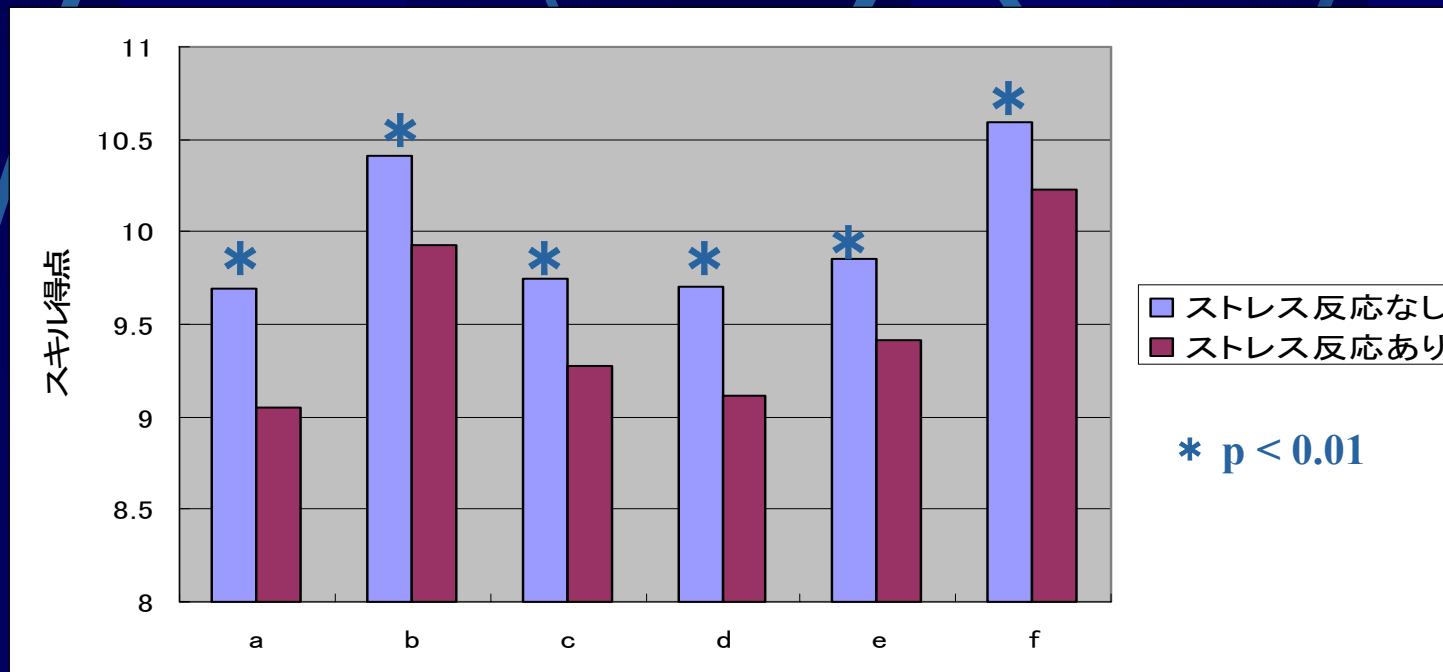
職業性ストレスの状況(職位別 男性)



社会的スキルと職業性ストレスの関係(1)

スキルの総得点:

ストレス反応なし群 59.9±8.8
ストレス反応あり群 56.3±9.4 * p < 0.01

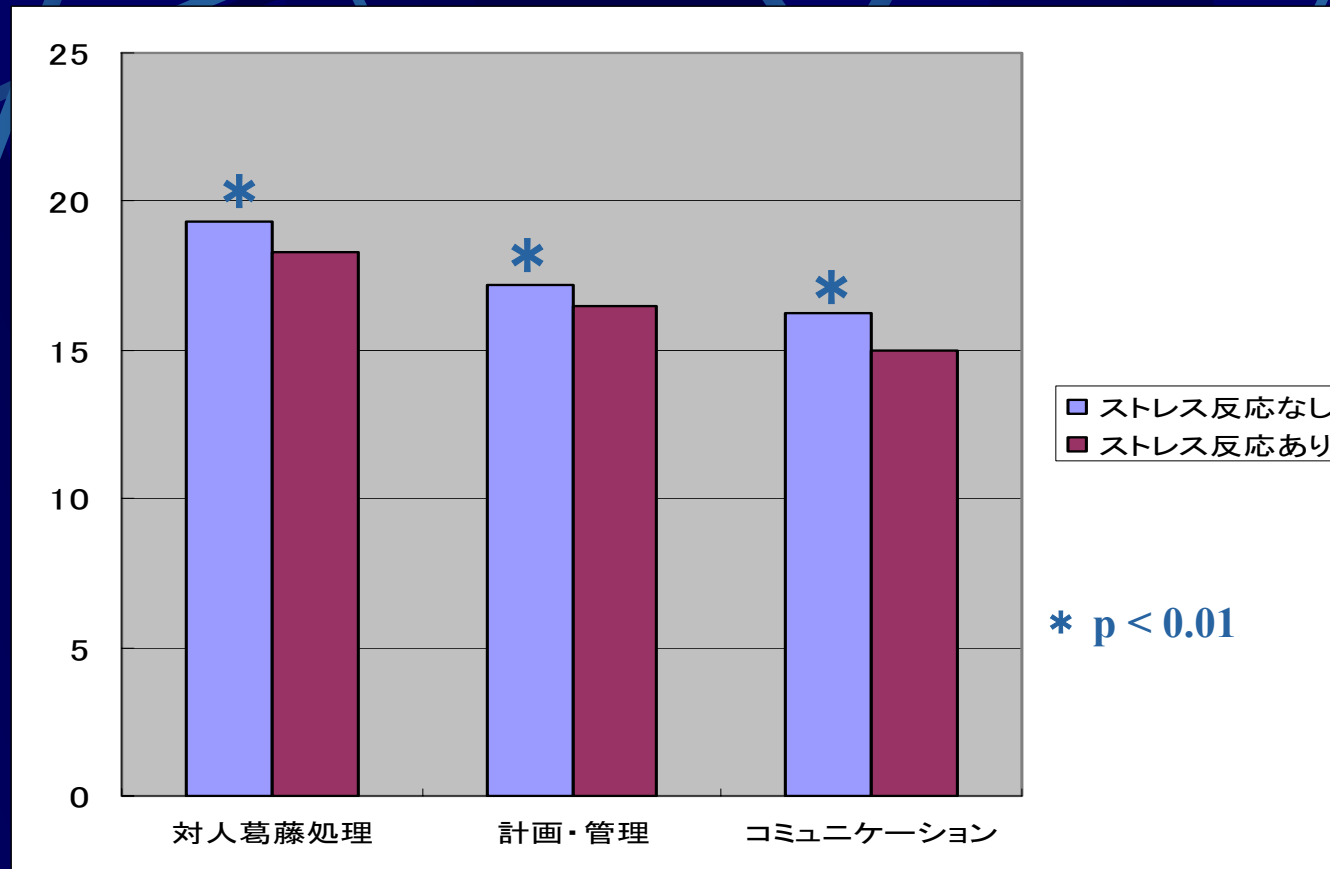


ストレス反応あり群となし群における社会的スキル得点(6下位尺度)

- a 初歩的スキル b 高度なスキル c 感情処理のスキル d 攻撃に代わるスキル
e ストレスを処理するスキル f 計画のスキル

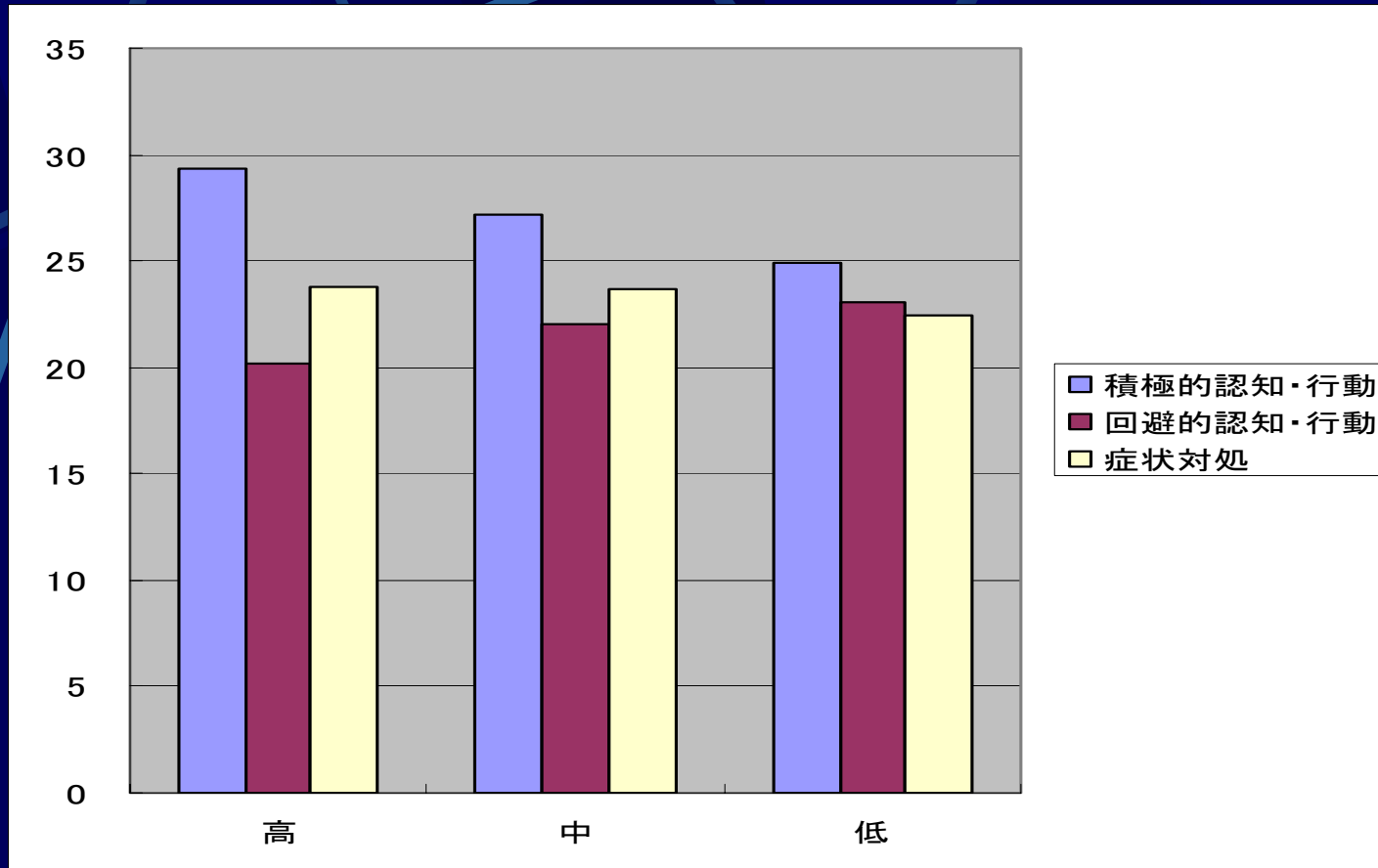
社会的スキルと職業性ストレスの関係(2)

(3下位尺度:対人葛藤処理 計画・管理 コミュニケーション)



ストレス反応あり群となし群における社会的スキル得点

社会的スキルとコーピングスタイルの関係

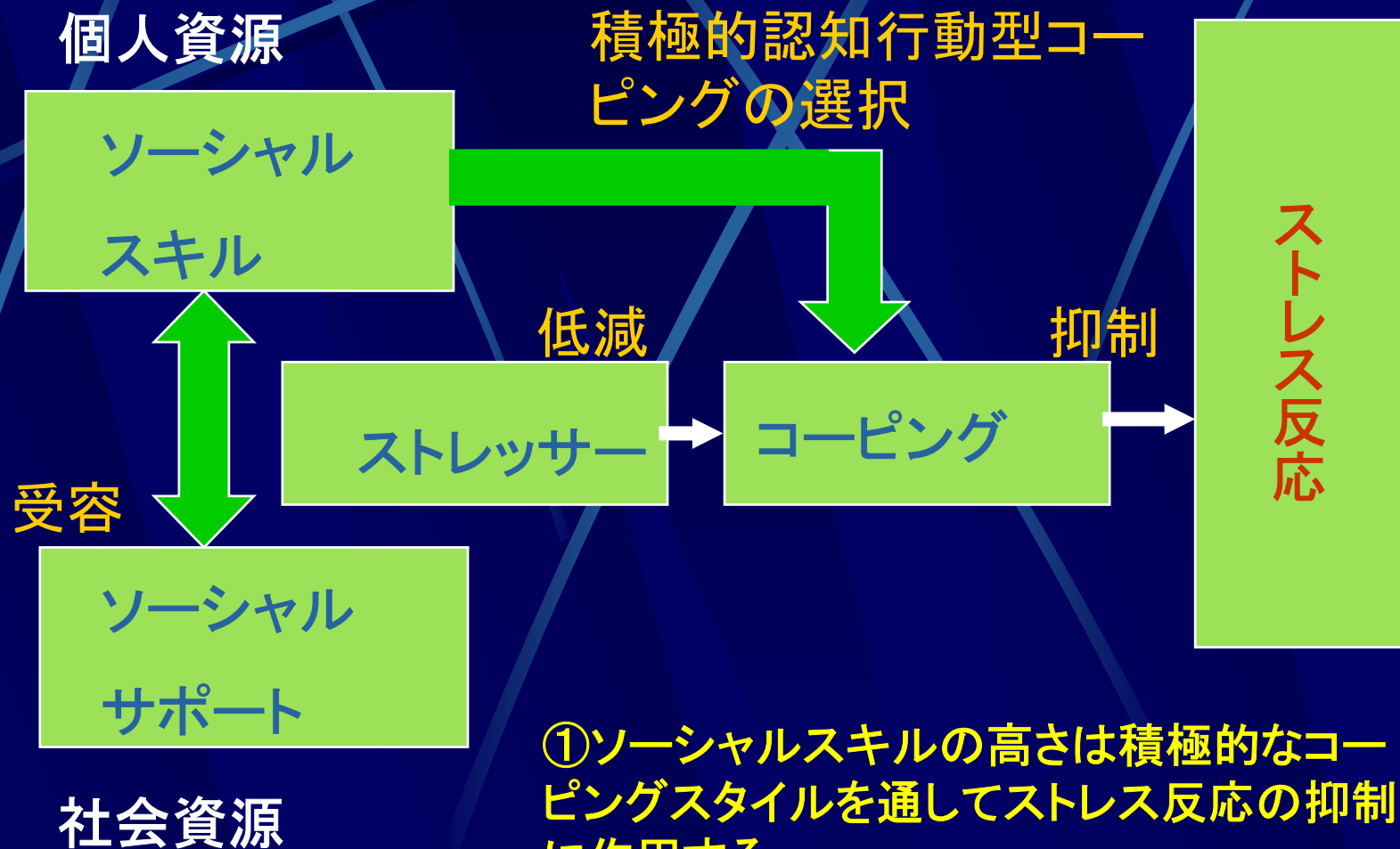


スキルの高低別コーピング得点

積極的認知・行動の得点はスキルが高値ほど統計学的有意に高く($p < 0.01$)、

回避的認知・行動はスキル値が低値ほど統計学的に有意に低い($p < 0.01$)。

症状対処はスキル値の高値群と比べて低値群で統計学的に有意に低い($p < 0.01$)。



①ソーシャルスキルの高さは積極的なコーピングスタイルを通してストレス反応の抑制に作用する。

②ソーシャルスキルの高さはソーシャルサポートを有効に活用させる。

まとめ

○社会的スキルの維持・向上は、職業性ストレスの低減にとって有効であることが示唆された。

○組織的な取り組みとして、職場内支援を受けやすくする職場環境の改善に加え、従業者個人に対して、コミュニケーションを円滑とする社会的スキルの向上の重要性についての理解を促進させる。

○事業所内での人間関係を越えた他職種・他領域、他年代の人間関係や家族、地域社会での人間関係から得られる社会的スキルの向上を認め、推奨する。

○スキルトレーニングの導入などを行う